NEWS RELEASE

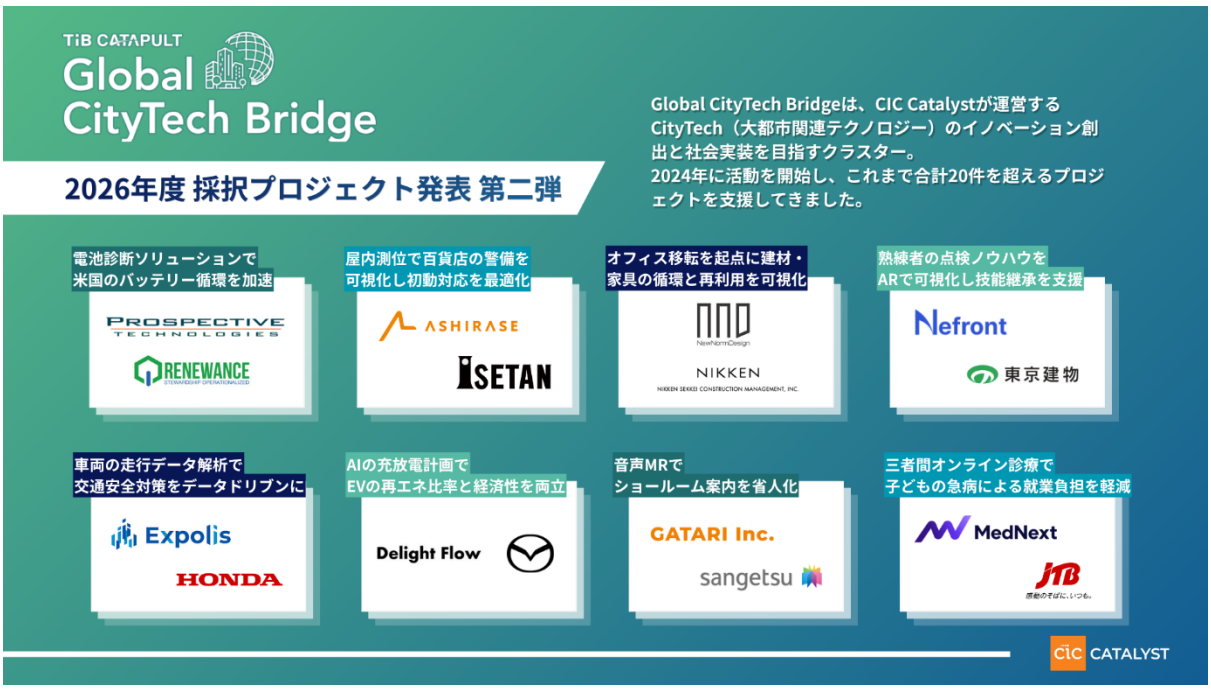
2026 年 11 月 25 日

CIC Japan 合同会社

報道関係各位

「東京都TIB CATAPULT『Global CityTech Bridge』」
2026年度採択プロジェクトの第二弾8件を決定！

～モビリティ、サーキュラーエコノミー、そして初の海外実証。
東京の都市課題解決を目指すスタートアップ×大企業の共創プロジェクト～



CIC Japan（本社：東京都港区虎ノ門、CEO：デニース・メドリンカ、以下CIC）のスタートアップ成長支援組織、CIC Catalystは、東京都より受託した「東京都グローバルイノベーションに挑戦するクラスター創成事業」において実施する「Global CityTech Bridge」の2026年度の採択プロジェクト第二弾として、下記の8件のスタートアップと事業会社の共創プロジェクトを新たに採択いたしました。

第一弾にて採択した6件と同様、CICではこれらのプロジェクトに対し、社会実装に向けた実装支援金の提供や成長支援、海外展開支援など、多面的な支援を行っていきます。

プロジェクトの成果などについては2027年2月の成果報告会にて発表予定です。

2026年度採択プロジェクト発表第二弾

①　三者間オンライン診療で子育てと就労の両立を支援



・採択スタートアップ：株式会社MedNext Japan（https://mednext.io/）
・実装パートナー：株式会社JTB（https://www.jtbcorp.jp/jp/）

プロジェクトの概要： 就業中の保護者、シッター、医師をつなぐ三者間オンライン診療システムを開発・検証します。まずJTB従業員向けに提供して有用性を確かめ、子どもの急な発病による保護者の就業負担を軽減し、企業が契約主体となる法人向けモデルの構築を目指します。

社会実装パートナーの役割： 企画統括、法人向けサービスの設計、参加者・ベビーシッター会社との調整、実証の運営と評価を担うとともに、自社従業員への提供を通じて実証機会を提供します。

---

②　車両走行データのAI解析で交通安全対策をデータドリブンに



・採択スタートアップ：エクスポリス株式会社（https://www.expolis.net/）
・実装パートナー：本田技研工業株式会社（https://global.honda/jp/）

プロジェクトの概要： SDV（Software Defined Vehicle）の走行データをAIで解析し、交通安全・道路課題の示唆レポートを自動生成するプラットフォーム「Expolis AI-based Mobility Insight」を構築します。事故が起きる前の課題をヒートマップ等で可視化して自治体・道路管理者に還元し、データに基づく交通安全の向上に貢献します。

社会実装パートナーの役割： 現物協力として実際のSDV走行データを提供するとともに、データの接続範囲や提供条件、評価指標の合意形成を担い、解析精度とレポートの実用性の検証を支えます。

---

③ オフィス移転を起点に建材・家具の循環を可視化



・採択スタートアップ：NewNorm Design株式会社（https://www.newnormdesign.com/ja）

・実装パートナー：日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社（https://www.nikken-cm.com/）

プロジェクトの概要： サーキュラー建材マネジメントツール「matinno」を新オフィスに導入し、建材や家具の流れを可視化します。オフィス移転を起点にサーキュラリティとトレーサビリティ、建材リユースを促進し、アセットマネジメント・ファシリティマネジメント領域での活用モデルの確立を目指します。

社会実装パートナーの役割： 実証の場となる自社の新オフィスを提供し、移転にともなう建材・家具の実際の流れを通じて検証の機会を創出するとともに、導入後の継続利用に取り組みます。

---

④ AIの充放電計画でEVの再エネ比率と経済性を両立



・採択スタートアップ：株式会社Delight Flow（https://www.delight-flow.jp/）

・実装パートナー：マツダ株式会社（https://www.mazda.com/ja/）

プロジェクトの概要： AIを用いて、EVの運用における再生可能エネルギー比率を高める充放電計画を立案し、実証します。EV実走行データで経済性と環境性を検証し、将来的にはEVユーザー向けアプリとして、最適な充電タイミングを通知する仕組みの社会実装を目指します。

社会実装パートナーの役割： EVの実走行データを提供するとともに、ユーザースタディに協力し、実用性の検証を進めます。

---

⑤ 屋内測位で百貨店の安全対策と初動を最適化



・採択スタートアップ：株式会社Ashirase（https://indoorflow.ashirase.com/）

・実装パートナー：株式会社三越伊勢丹

プロジェクトの概要： 百貨店に屋内測位システム「IndoorFlow」を導入し、警備員の位置をリアルタイムに可視化します。既存の顔認証アラートと屋内マップを連携させ、最寄りの警備員を即時に派遣することで、多層フロアの店舗でも駆けつけ時間を短縮し、店舗の安全対策における初動の最適化を目指します。

社会実装パートナーの役割： 実証フィールドを提供し、現場の課題とニーズを示すとともに、現場評価を通じて本格導入・多店舗展開に向けたフィードバックを行います。

---

⑥ 音声MRでショールーム案内を省人化



・採択スタートアップ：株式会社GATARI（https://gatari.co.jp/）
・実装パートナー：株式会社サンゲツ（https://www.sangetsu.co.jp/）

プロジェクトの概要： サンゲツがデザイン・施工した共創空間「PARCs Sangetsu Group Creative Hub（以下PARCs）」に、音声Mixed Realityプラットフォーム「Auris」を活用した回遊型の音声体験を実装します。ショールーム案内の省人化と質の向上、追加の人員・設備を要さない多言語対応を実現し、空間体験のDXを推進します。PARCsでの実証を経て、全国のショールームへの展開を目指します。

社会実装パートナーの役割： 自社がデザイン・施工した共創空間「PARCs」を実証の場として提供するとともに、体験シナリオの監修、集客および広報を担います。

---

⑦ 電池診断ソリューションで米国のバッテリー循環を加速



・採択スタートアップ：プロスペクティブ・テクノロジーズ株式会社（https://prospective.co.jp/）
・海外実証パートナー：Renewance Inc.（米国）（https://batterystewardship.com/）

プロジェクトの概要：米国でバッテリーエネルギー貯蔵システム（BESS）および商用EV向けに、試運転・運用保守から廃止・リサイクルまでを一貫して手掛ける独立系サービスプロバイダーの米国Renewan

ce社にクラウドベースのバッテリー診断ソリューションを提供し、実証を行います。従来必要だった満充電と放電の工程を不要にすることで、診断の速度とコストを大幅に改善するとともに、脱炭素にも貢献します。

海外実証パートナーの役割： 実証場所と対象となるバッテリーを提供し、従来手法との比較検証を行うとともに、技術面・ビジネス面の双方からフィードバックを行います。

---

⑧ 熟練者の点検ノウハウをARで可視化し技能継承を支援



・採択スタートアップ：株式会社Nefront（https://www.nefront.com/）
・実装パートナー：東京建物株式会社（https://tatemono.com/）

プロジェクトの概要： 大規模ビルの設備点検において、熟練者の巡回ルートや確認箇所、説明動画をARで表示するサービスを導入します。スマートフォンで誰もが同じ手順をたどれるようにすることで、人材の入れ替わりが続くビルメンテナンスの現場における暗黙知の継承と、点検品質の平準化を目指します。

社会実装パートナーの役割： 実証フィールドを提供し、熟練者の巡回ルートや点検観点の整理、現場からのフィードバックを担うとともに、業務の脱暗黙知化、他物件への展開、業務システムとの連携による効率化に取り組みます。

Global CityTech Bridge について
https://jp.cic.com/tib-catapult/
"Global CityTech Bridge"は、CityTech（大都市関連テクノロジー）のイノベーション創出と社会実装を目指すものです。運営はCIC Catalystと清水建設株式会社が共同で担い、社会実装パートナーとともに、スタートアップに対して、大企業とのマッチング、実証機会の提供、社会実装に対する経済的支援、海外市場展開支援、PR機会の提供などを行います。今後、スマートシティ、モビリティ、エネルギー、脱炭素、資源循環、防災・レジリエンス等に関するソリューションを、課題先進都市である東京で実証・社会実装し、東京での実装例をもって海外展開を目指します。

また、海外展開においては、英国のConnected Places Catapult、米国のAnywhere Ventures、シンガポールのTribe、韓国のSCCEI（ソウル創造経済革新センター）、台湾のGarage+・LITEON+と連携し、海外大都市へのプロダクト展開支援を実施しています。

これまで、Global CityTech Bridgeで採択したプロジェクトは、2024年度採択11件、2025年度採択9件、2026年度採択14件、合わせて34件にのぼります。

TIB CATAPULT について

https://tibcatapult.metro.tokyo.lg.jp/

東京都では、都が運営するイノベーション拠点「Tokyo Innovation Base」(TIB)を起点に、成長可能性が高い技術や産業の分野を集中的に支援するため、令和6年度から「グローバルイノベーションに挑戦するクラスター創成事業(通称「TIB CATAPULT」)」を実施しています。この事業は、大企業や投資家など複数の事業者による共同体「イノベーションクラスター」が、それぞれの強みを生かして、グローバルなスタートアップを育てていくことを支援するものです。

CIC Catalyst について

https://jp.cic.com/innovation-program/

「CIC Catalyst（シーアイシー・カタリスト）」は、CICにおけるイノベーション・コンサルティングおよびスタートアップの成長支援を行う組織です。事業会社、投資家、政府機関、大学研究機関等と連携し、最先端のテクノロジーを持つスタートアップの創出・スケールアップ、およびエコシステム構築を支援しています。これまでに、グローバルで100以上のプログラムを提供し、700社を超えるスタートアップ企業の事業成長や海外展開を支援してきました。支援したスタートアップが調達した資金は累計170億ドル（約2.5兆円）に達しています。また、17のイノベーション地区の活性化に向けたコンサルティング・アドバイザリーを実施しています。